

まちの歴史遺産

先人がいた、時代を創った足跡を辿る
未来に伝えたい、私たちの町の誇り

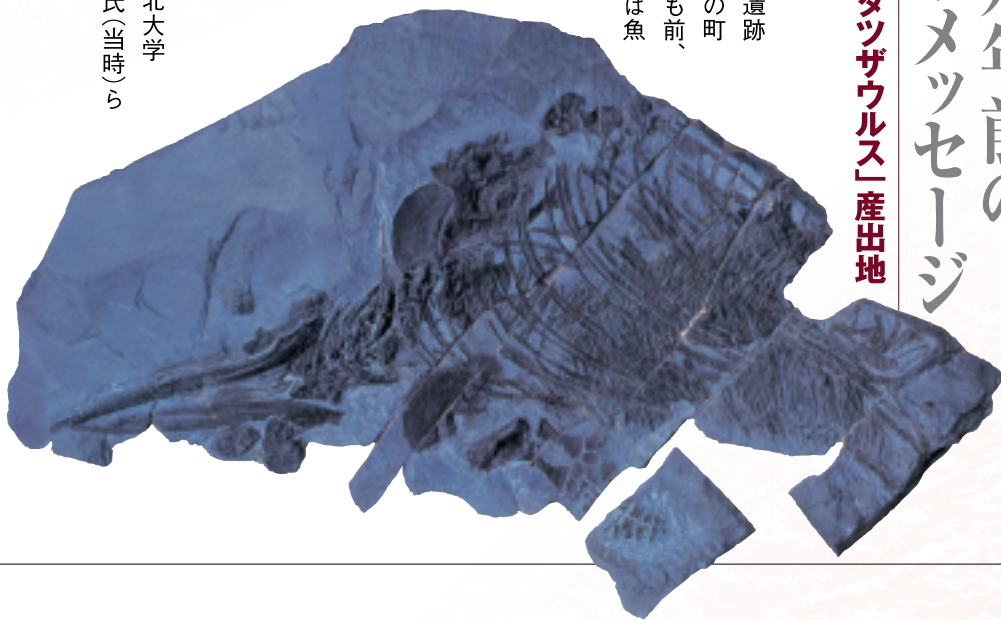
2億4千万年前の 太古からのメッセーじ

世界最古の魚竜化石「ウタツザウルス」産出地

南三陸町では、数多くの化石・遺跡が見られ、それらは太古からのこの町の様子を物語ります。2億年以上も前、この町一帯は海でした。その海には魚竜が群れをなして泳ぎ、アンモナイトが生息、海底には多くの貝類が棲息していました。魚類から2億年以上の時を経て人類へと進化し、人々が営みを始めたのです。

世界を驚かせた 「ウタツ魚竜」の発見

1970年（昭和45）9月、東北大学地質学古生物学教室の村田正文氏（当時）ら



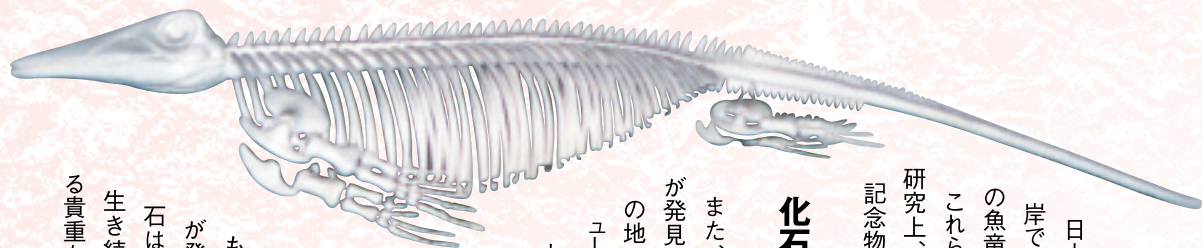
日本地質学会の研究グループが、歌津地区館崎の西側一帯の海岸で、十数体の魚竜化石を発見。2億4千2百万年前の世界最古の魚竜化石として、世界に知れ渡りました。

これらは「ウタツ魚竜（学名ウタツザウルス）」と命名され、古生物学研究上、非常に貴重なものとして、1975年（昭和50）には国の天然記念物に指定されました。

化石産出現地に建つミュージアム

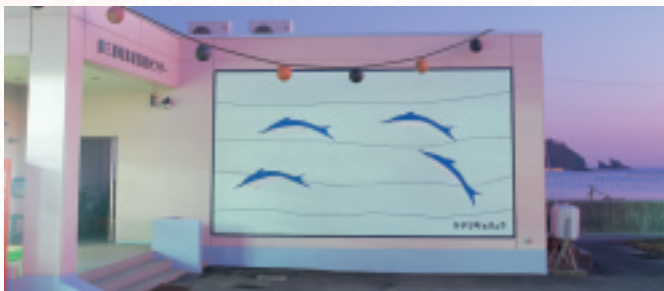
また、管の浜でも「クダノハマ魚竜」が発見されたことから、化石産地のこの地に全国でも珍しい現地保存ミュージアム「魚竜館」が建てられました。館内には化石やジオラマのほか、ドイツで発見された「イクチオザウルス」の化石や「ベザノザウルス」のレプリカなどが展示され、世界の研究者の注目を集め続けています。

また、志津川地区の細浦でも1億5千万年前の「細浦魚竜」が発見されています。これらの化石は、太古から今日まで海と共に生き続ける南三陸町の歴史を伝える貴重な財産です。



縄文人など先人の生活ぶりを今に

南三陸町では約1万年前より、人々は狩猟を行い集団で魚の網漁をするなど、集落をなして生活していました。歌津地区の町向、峰畑、管の浜などから、縄文時代の土器や石器など先人の遺物が数多く出土しています。志津川地区折立にある大平館跡からは7千年も前の竪穴住居跡などが見つかっています。



義経伝説と 平泉の藤原黄金文化

入谷産金と田束山

850年以上も前の平安時代、南三陸町は本吉荘と呼ばれ、藤原摂関家の荘園でした。その頃から砂金が採れて、荘園の年貢として納められていました。この地を治めた奥州藤原氏の黄金文化を支えたのも、南三陸の金でした。町には、奥州藤原氏と深く関わった義経伝説も残っています。

藤原栄華を支えた、みやぎ南三陸の黄金海道

南三陸の北上山系で採取された金は、本吉金として脚光を集め、その主産地は田束山周辺地域や小泉川の砂金でした。奥州藤原氏の初代清衡が建立した平泉の中尊寺金色堂は、この地の金で飾られたと言われています。

なかでも、入谷の童子山付近から掘られた「入谷産金」は、大きな注目を集めていました。そのため、平泉からは三代秀衡の四男・本吉四郎高衡が派遣され、朝日館に居を構えて経営に力を注いだと伝えられます。一時は「入谷千軒」と呼ばれる集落が生まれる程のゴールドラッシュに湧いたものの、江戸・元禄時代には金が底をついてしまい、産金時代は終焉を迎えました。



修験の山として 藤原氏が尊信した 田束山

三代秀衡は、古くから山岳信仰の霊山として尊ばれてきた田束山を深く信奉し、多くの寺坊を復興させました。その数は、

大小寺院48、坊は380を越したと言われています。

山頂にある11基の経塚は、約800年前の平安末期のものと推定され、今なお全山いたるところに杜寺跡が点在しています。

また町には、田束山寂光寺の什物として伝わったとされる、平泉中尊寺経蔵にある国宝「紺紙金経」の一部、「紺紙金泥大般若経」（荒沢神社蔵）が残されています。

不滅の英雄・ 義経にまつわる哀伝

町内には源義経にまつわる伝説も多く残されています。例えば、保呂羽山麓の江島には、義経の妻である「江島」が住んでいたとされています。また、義経の側近・鈴木三郎重家を追って志津川にたどり着いたその妻・小森御前が、夫の訃報を聞いて自ら命を絶ったことから、これを哀れみ、村人が建てて祀った祠が残されています。

